

今月の農業情報

尾 張

はつらつ農業塾から新たな担い手誕生

と き 平成30年7月25日（修了式）、27日（入塾式）

と ころ 稲沢市、一宮市

はつらつ農業塾は平成20年に愛知西農業協同組合、一宮市、稲沢市の3者の共同運営で、農業者の高齢化と後継者不足による農地の遊休化を解消するために、農業従事者を増やすことを目的として始めました。農業塾には専業農家を目指す「担い手育成コース（2年間）」と基本的な野菜の栽培を学ぶ「生きがいコース（1年間）」があり、これまでに2コース合わせて約千名が卒塾しました。このうち、担い手育成コースの10名が就農しました。今年度の修了式では、担い手育成コースの2名が、2年間の思い出と専業ナス農家になる決意を述べました。また、入塾式では、担い手育成コース3名の代表者が、あいさつで農業経験が無いことへの不安と、農業を基礎から学べる喜びを述べました。

農業改良普及課では、担い手育成コースの入塾希望者の就農や資金などの相談、就農計画の作成、講義やほ場での実習指導を行っています。また、農業塾の運営協議会委員として入塾時の面接や進級審査を行っています。

今後も関係機関と連携して、新たな担い手確保に努めていきます。



【修了証書を受ける
担い手育成コース生】

海 部

4Hクラブ員、将来の農業経営を真剣に考える

と き 平成30年7月31日（火）

と ころ 海部総合庁舎

海部4Hクラブ連絡協議会は、自らの農業経営を考えるための研修会を開催し、11名が参加しました。「農業経営を学びたい」、「講演を聴くだけでなく、手を動かしながら考え、印象に残るものにしたい」という役員会の熱い思いのもと、役員会で研修内容の検討を重ねました。

研修会当日は、株式会社田口農園（茨城県）代表取締役社長の田口真作氏を招き、経営移譲に合わせて農業経営の現状把握や課題を抽出した経験、成果をあげた経営改善の取組について講演をいただきました。

また、出席クラブ員は、田口氏の講演内容も踏まえて、自身の農業経営の現状と課題を把握して改善点を見つけ出すための「経営分析シート」を作成し、改善点についてグループに分かれて意見交換を行いました。各グループからの発表では、「どんな経営を目指すのか見極めることが大事」、「我が家の経営状況をしっかり把握することが必要」などが報告されました。

今回の研修は、日々の作業に追われがちな若いクラブ員にとって、一度立ち止まって将来の農業経営を真剣に考えてみる良い機会となりました。

農業改良普及課は、今後も若い農業者の思いが組織活動に反映されるよう支援していきます。



【「経営分析シート」の記入】

知多

関係機関一丸となって新規就農者を激励！！

とき 平成30年7月18日（水）

ところ JAあいち知多総合本部ビル

知多農林水産事務所、JAあいち知多、管内5市5町で構成する知多新規就農支援協議会は、「平成30年度新規就農者激励会」を開催しました。

新規就農者30名が出席し、内訳は、新規参入が12名、親元就農が18名でした。作目別には作物1名、露地野菜8名、施設野菜7名、花き1名、果樹8名、畜産5名でした。

第1部では、新規就農者が就農激励状と記念品を受け取った後、自己紹介とともに今後の抱負を語りました。来賓を代表して農業経営士協会知多支部の大岩支部長から、「これから多くの困難があると思うが、関係機関の協力を得ながら、目指す農業経営を実現してほしい。」と激励の言葉が贈られました。第2部では、新規就農者と市町課長・担当者、JA営農センター長、農業改良普及課職員を交えて、小グループでの面談及び意見交換会を実施しました。今後も市町、JAと連携し、地域一体となって新規就農者の支援を行っていきます。



【新規就農激励状を受け取る
新規就農者】



【面談及び意見交換会】

西三河

キュウリ平均単収 25t/10a で過去最高！あぐりログの導入進む

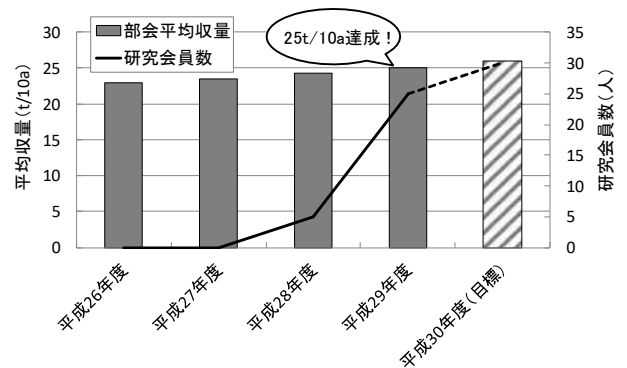
とき 平成30年7月27日（金）

ところ 安城市

JAあいち中央胡瓜生産部会が実績検討会を開催しました。平成29年度作（11月～7月）の実績は、出荷数量3,931t（前年度比103%）、販売金額1,071,480千円（同106%）、平均単収は25.0t/10a（同103%）で過去最高となりました。

好成績を達成した要因は、好天に恵まれた他、環境モニタリング装置「あぐりログ」の導入が増え、改善活動が進んだことです。同部会では、平成28年度に、「あぐりログ」を導入した5名の農家からなる「環境モニタリング研究会」が発足し、平成29年度には研究会参加農家は25名に増加しました。農業改良普及課はこの研究会に対し、植物生理や環境制御に関する講義を行ったり、PDCAサイクルを意識した栽培改善活動、生産者同士の情報交換を促してきました。それらの活動により、「あぐりログ」を今年度新規導入した農家の平均単収は前年度比118%となり、部会平均単収の向上に大きく貢献しました。

平成30年度は、あいち型植物工場推進事業を活用し、新たに9名が炭酸ガス施用装置の導入を計画するなど、今後ますます活動が活発になる見込みです。



【部会平均単収と環境モニタリング
研究会員数の推移】

と き 平成30年7月24日（火）

ところ 豊田市内 なす部会員ほ場

J Aあいち豊田なす部会は、約 3.4ha の露地ナスを栽培している部会です。栽培年数5年以下の生産者が部会の約3割を占めており、栽培技術の向上が課題となっています。そのため、農業改良普及課では、栽培年数が3年以下の生産者を対象に、個別ほ場巡回を行うなど、栽培技術の向上を支援しています。

当部会では毎年視察研修を行っており、今年度は管内の優良ほ場として、収量の多い松平地区の生産者と、青枯病対策試験を実施している猿投地区の生産者のほ場を、部会員24名が視察しました。

松平地区のほ場では、優良生産者が収量向上や作業軽減のための工夫を紹介し、参加者は熱心に質問していました。また、猿投地区のほ場では、農業改良普及課が作成した資料を基に、青枯病対策試験の内容を説明し、生育状況を確認しました。参加者からは、青枯病対策は難しいので、今後の試験の結果に期待している旨の意見が出されました。

今回の視察には、栽培年数が3年以下の生産者6名の内、5名が参加し、他の生産者と熱心に情報交換を行っていました。

農業改良普及課では、今後も栽培年数の短い生産者への技術指導を通じて、産地の収益力向上を図っていきます。



【ほ場で熱心に話を聞く部会員】

と き 平成30年7月16日（月）

ところ 新城市東新町公民館（新城市井道）

農村輝きネット・しんしろは、地域の食材を利用したレシピ提供やクッキング教室の開催などを通じて、地域の食育活動・食文化伝承の活動をしています。

この日は、会員6名が集まり、旧暦10月（亥の月）最初の亥の日、田の神様が山に帰る日に感謝して作るイノシシの子どもに似せたぼたもち「亥の子ぼたもち」と「里芋入りぼたもち」を調理しました。「里芋入りぼたもち」は新城市の郷土食で、里芋をいれることでやわらかさを保つことができます。今回は地域の特産品である「八名丸さといも」を使用しました。

当日は、テレビ愛知35周年記念番組の取材があり、調理の様子は、9月1日午後4時から放送されました。

農業改良普及課は、今後も農村輝きネットの食育・食文化伝承の活動を支援していきます。



【亥の子ぼたもち】



【撮影風景】

と き 平成30年7月3日（火）、9日（月）、20日（金）

ところ JA豊橋第五事業所（豊橋市牟呂町）ほか

東三河のJA豊橋いちご部会、JAひまわりいちご部会、JA蒲郡市苺部会が平成29年度作を終えて、それぞれ総会を開催しました。

平成29年度作は、11、12月の寒さが厳しかったので、農業改良普及課等から暖房機の温度設定を上げるように呼び掛け、12、1月の出荷量は前年度を上回りました。しかし、3月の暖気で出荷が前進し、なり疲れから4月以降の出荷は減少しました。平成29年度作の出荷量は前年並みで、販売金額は部会により前年並みまたは前年を上回る結果となりました。

農業改良普及課は、総会後の研修会で、GAPに関する情報提供や、あぐりログ勉強会の活動報告を行い、品質向上・生産性向上のため支援を行いました。



【JAひまわりいちご部会
総会の様子】

【平成29年度作の出荷量・販売金額】

	出荷量	前年比	販売金額	前年比
JA豊橋いちご部会	323万パック	100%	10億9,544万円	104%
JAひまわりいちご部会	300万パック	99%	10億1,107万円	99%
JA蒲郡市苺部会	232万パック	101%	7億9,018万円	106%

と き 平成30年7月18日（水）

ところ 田原市 渥美文化会館

田原市環境保全型農業推進協議会が土づくり講演会を開催しました。

農業総合試験場企画普及部広域指導室大橋祥範専門員の「土づくりで土壌はどう変わるのか」と題した講演を約100名が熱心に聴きました。土づくりの効果を見える化するため、現地ほ場の土壌を使った実験を交え、堆肥や緑肥の効果が説明されました。

受講者からは「実験が有り分かりやすかった」、「堆肥やソルゴーの効果がグラフなどでよくわかった」、「毎年続けなければと感じた」、など分かりやすい内容で好評でした。一方で、「堆肥の臭気・量について地域全体として一定のルールが必要」など環境に配慮した取組の必要性についての意見も聞かれました。

農業改良普及課では、緑肥による土づくりを推進しており、今回の講演会に対して事前準備から積極的に参画し、開催を支援しました。



【熱心に講演に耳を傾ける参加者】